④ 地震・津波からの避難

●震度5弱以上が予想されると緊急地震速報が出ます。（速報が間に合わないこともあります）
●津波が予想される場合は約3分で警報等が出て、予想の「津波の高さ」「到達時間」を発表します。
●マグニチュード8を超える巨大地震のとき、津波の高さは「巨大」「高い」と発表します。

「巨大」「高い」と聞いたら、すぐに避難しましょう。

地震の震度

こんな現象が起こる!

- **震度0**　地震計のみで観測でき、人体には感じない。
- **震度1**　屋内に居る人の一部がわずかな揺れを感じる。
- **震度2**　吊り下げ型の電灯や障子などがわずかに揺れる。
- **震度3**　電線が少し揺れ、棚の食器が音を立てることがある。
- **震度4**　電線が大きく揺れ、花瓶などすわりの悪いものが倒れることがある。
- **震度5弱**　食器類や書籍が落ち、窓ガラスが割れることがある。
- **震度5強**　テレビが台から落ち、タンスや自動販売機が倒れることがある。
- **震度6弱**　かなりの建物で、壁やタイルのや窓ガラスが破損、落下する。
- **震度6強**　立っていることが出来ずに、固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。
- **震度7**　耐震性の高い住宅でも、傾いたり、大きく破損するものがある。

地震発生時から避難・避難後までの行動マニュアル

グラッ!! 地震発生! ▶ 1~2分 ▶▶▶ 3分 ▶▶▶▶ 5分 ▶▶ 10分 ▶ 3日

最初の激しい揺れは約1分程度

① まず、身を守る
クッションや座布団などで頭を保護。机やテーブルの下へ。

② すばやく火の始末
ガスやストーブの火を消し、電気器具はプラグをぬく。

③ 非常出口の確保
玄関、窓を開けて逃げ口を確保。

揺れがおさまったら家族の安全確認

① 火元の確認
ガスの元栓を締め、ブレーカーを落とす。もし火が出ていたら、あわてずに初期消火を。

② 家族の安全確保
倒れた家具の下敷きになっていないか確認。

③ 靴またはスリッパを履く
ガラスの破片や散乱物から足を守りため、靴か底の厚いスリッパを履く。

④ 危険地域から避難
津波やがけ崩れのおきそうな危険地域からすぐに避難。

余震に注意しつつ隣近所の安全確認

① 隣近所への声かけ
けが人、行方不明者がいないかを確認する。

② 火災時には初期消火
大声で知らせて、消火器、バケツリレーなど近隣で協力して初期消火を。

デマに惑わされず正確な情報を収集

① 正しい情報を聞く
ラジオ等で正確な情報を収集。町役場、消防、警察、自主防災組織の情報を確認。

② 電話は緊急連絡を優先
安易に電話をかけることは避け、安否の確認は「災害用伝言ダイヤル」等を活用する。

③ 危険があればすぐに避難
家屋倒壊などの危険があればすぐに避難する。

避難後は助け合いの心で行動を

① 消火、救出、救援活動
みんなで協力して、消火活動や、救出、救護活動を。

② 水・食料の確保
いざというときのために、日頃から最低でも3日分の飲料水と食料の備蓄を。

③ 倒壊した家等には入らない
倒壊した家やその危険性のある家には決して入らない。

④ 災害情報、被害情報の収集

（1）地震・津波が発生したときの、避難先・避難方法

- 「強い揺れ」「津波警報の発表」があったときは、余別地区の方は、全員、避難しましょう。
- 余別小学校・コミュニティセンターは、津波が来る可能性がありますので、避難先には使用しません。
- 地震のみ（津波なし）のときは、余別小学校・コミュニティセンターへ避難しましょう。
- 冬は、雪などで避難に時間がかかることを、忘れないようにしましょう。

	報道 高さ	報道 表現	想定される被害	避難先・避難方法
津波注意報	1m	−	・海で、流れに巻き込まれる。 ・小型船は転覆。	①海岸から離れる。 ②IP告知端末機、屋外拡声機、テレビ、ラジオ等の情報を聞く。
津波警報	3m	高い	・低い場所は浸水。 ・陸でも、津波の流れに巻き込まれる。	①すぐ、高い場所に避難（一次避難）。 **旧クラッセ方面（展望台駐車場、旧クラッセ駐車場、さくらますサンクチャリセンター駐車場）** ●徒歩または車で避難します。 ●徒歩で避難する人で、避難に時間がかかる人、体力的に不安な人は、本通りまで出て、避難する車に乗せてもらいましょう。 ●車で避難する方は、車で避難できない隣近所の方、徒歩で避難している方を発見したときは、乗せるようにしましょう。 **雙源寺…徒歩のみ** ●車での避難は控えてください。 **近くの高台** ●徒歩で避難します。 ②警報が解除されたら、余別小学校・コミュニティセンターなど安全な施設に移動（二次避難）。
大津波警報	5m 10m 10m超	巨大	・木造家屋が全壊・流出。	

津波の特徴を知って、避難に活かしましょう

恐るべき破壊力	巨大な海水の塊が沿岸に押し寄せるので、すさまじい破壊力があります。 引き波も長時間にわたり引き続けるため、家屋などが海中へ引き込まれます。 **警報が解除されるまで、高い場所で避難を続けてください。**
高い場所への遡上	一般的に、陸地に近づくほどに高くなり、V字型の谷では高いところまで駆け上がることがあります。 **谷間に避難するのは避けてください。**
河川への逆流	川に入ってきて何kmも逆流することがあります。 逆流した津波が、河川堤防を越えて沿岸に大きな被害をもたらすことがあります。 **川の方に避難するのは避けてください。**